

岡山県芸術祭 岡山県管弦楽演奏会

倉敷室内管弦楽団

第3回定期演奏会



'78 1月8日(日) 14:00~16:00

倉敷市民会館

主催/ 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会・倉敷市自主文化事業協会
後援/ 山陽新聞社・NHK岡山放送局・山陽放送・岡山放送・倉敷市文化連盟



岡山県教育委員会

教育長 小野 啓 三

昭和52年度岡山県芸術祭の一環として、管弦楽演奏会を開催することになりました。県民の皆様へ、すぐれた音楽に接していただき、音楽を愛好する心情と豊かな情操を養う一助としていただけたらと考えております。演奏は、文化都市倉敷市にふさわしいユニークな楽団として多彩な演奏活動を行っておられる倉敷室内管弦楽団をお願いいたしました。指揮は九州交響楽団常任指揮者のフォルカー・レニッケ氏、ソリストにヴァイオリニストとして著名な和波孝禧氏をお迎えしております。どうぞごゆっくりご鑑賞ください。



(第2回定期演奏会より)

倉敷室内管弦楽団

団 長 小 山 裕 章

本日は、倉敷室内管弦楽団の第3回定期演奏会においでくださりましてありがとうございます。さて、石の上にも3年、とか申しますが、この管弦楽団が誕生してから3年、やっとその活動が地についた感じがします。その間定期演奏会、合唱団との共演、市民音楽祭参加、NHK-FM放送出演など多彩な演奏活動をして参りましたが、特に昨年9月、フルートの世界的巨匠ジャン・ピエール・ランバル氏との共演に大成功をおさめたことは、この管弦楽団の成長を示したものといたします。しかし、まだ1人前のオーケストラには遠く、これからの発展のため、皆様の暖かいご援助をお願い申し上げます。この演奏会は、岡山県芸術祭の管弦楽演奏会として、ヴァイオリン独奏に和波孝禧氏、指揮にフォルカー・レニッケ氏を迎え、県芸術祭として恥ずかしくない充実した演奏会とするため団員一同努力して参りました。どうぞ最後までごゆっくりご鑑賞ください。

プログラム

水上の音楽 (ハレ版) ヘンデル

第1組曲 ヘ長調

Ouverture - Adagio e staccate - Allegro - Andante -
Allegro - Air - Menuet - Bourée - Allegro

第2組曲 二長調

Allegro - Alla Hornpipe - Menuet - Bourée

第3組曲 ト長調

Allegro - Menuet - Cantabile

*

ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K216 モーツァルト

第1楽章 Allegro

Vn. 和波孝禧

第2楽章 Adagio

第3楽章 Rondo - Allegro

弦楽セレナーデ ホ長調 作品22 ドボルザーク

第1楽章 Moderato

第2楽章 Tempo di Valse

第3楽章 Scherzo

第4楽章 Larghetto

第5楽章 Finale

指揮 フォルカー・レニツケ

演奏 倉敷室内管弦楽団

曲目ノート

ヘンデル

水上の音楽 (ハレ版)

オペラやオラトリオに数多くの大作を残したヘンデルは、絵画にたとえれば巨大な壁画に豪快な絵筆を揮うフレスコ画家でした。彼は本質的にドラマチックな音楽家であり、その音楽は多面的な華やかさ、開放的で楽天的な明るさ、おおらかさの特徴としています。ヘンデルのこのような特質は、彼が特定の祝賀会や祭典のために書いた大規模な作品にもっともよく表われており、それらは催しものの壮麗な雰囲気、おどろき、興奮にふさわしいすぐれた作品となっています。『水上の音楽』は、このジャンルの代表的な傑作で最もポピュラーなものです。50人の楽士をのせた舟がテムズ河上で演奏したこの『水上の音楽』を国王ジョージ1世は大変お気に召されたようですが、舞台の上での演奏はいかがでありますか？今日は時間の関係で一部割愛して演奏します。

モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K216

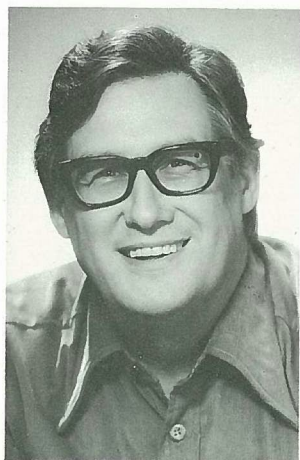
第2番の協奏曲から約3カ月の月日をへだてた初秋に完成したこの第3番の協奏曲は、規模の大きさ、技法の確かさ、あるいは表現の幅、芸術的価値などさまざまな点からこの短い期間のうちに飛躍的に充実した曲となっています。第1楽章の明快な旋律、おどやかで美しい2楽章、フランス風な3楽章と形式的に完全で、音色の美しさはモーツァルトならではです。「モーツァルトの第3番は最も好きな曲の一つです」と言う和波さんの透きとおった美しい音をじっくりとお聴き下さい。

ドボルザーク

弦楽セレナーデ ホ長調 作品22

ドボルザークと言えば『新世界』、『チェロ協奏曲』、等で民族色豊かでスケールの大きな曲を書く人気のある作曲家ですが、この『弦楽セレナーデ』は彼がいろいろな先輩の影響から脱して独特の個性をしめしはじめた青年時代における最も美しい作品です。曲は5楽章からなり、各楽章はごく簡素ではあるがナイーブな抒情性と優美なニュアンスを伝える響きにおいてういういしい生命感がひそんでいます。チャイコフスキーの『弦楽セレナーデ』と並ぶ名作ですが、弦楽だけのため緻密なアンサンブルと美しい音色が要求され、演奏者泣かせの難曲です。倉敷室内管弦楽団も誕生して3年。あえてこの難曲に挑戦してみました。今日は日頃の練習の成果が発揮できますでしょうか？

出演者紹介



フォルカー・レニック
VOLKER RENICKE
(指揮)

1929年ブレーメンに生まれる。
デットモルト音楽大学でピアノをハンス・リヒター・ハウザー氏、指揮をクルト・トーマス及びオイゲン・パプスト両氏に師事。ライト市立劇場、ミュンスター市立劇場、チューリッヒ国際オペラスタジオの指揮者を務めた後、1971年より、スイス、パーゼル市立歌劇場首席指揮者となる。同時に1973年よりチューリッヒ音楽院の指揮科とオーケストラの指導にあたり1974年にはバロックアンサンブルを結成し、パーゼルにて演奏会を開催する。また、西ドイツ、フランス、オランダ、スイス等の各都市で指揮活動をつづけ、昨年9月九州交響楽団常任指揮者として来日。

現在、福岡市在住。



和波孝禧
TAKAYOSHI WANAMI
(ヴァイオリン独奏)

1945年東京生まれ。生来盲目。

4歳よりヴァイオリンを始め、辻吉之助、鷺見三郎、江藤俊哉氏に師事。1954年全国盲学生音楽コンクール、58年全国学生音楽コンクールでいずれも第1位。62年には第31回音楽コンクール第1位特賞安宅賞受賞。1963年日本フィル定期のソリストとして楽壇にデビューし、翌64年には「都民劇場」、65年には「毎日ソリスト」でリサイタル以後毎年東京、大阪をはじめ各地で数多く独奏会、オーケストラとの共演を行なっている。海外での活動は、65年パリのロン・ティボーコンクールで第4位。70年ロンドンのカールフレッシュコンクールヴァイオリン部門第2位入賞。同年秋ブリュッセルでイザイ記念メダルを受賞。1969年ベルリン・ロンドンでのリサイタルに成功を収め、以後毎年欧米各地で演奏、放送を行なっている。この間J・シゲッティ、D・オイストラッフ、S・ロレンツイ氏らのもとで研鑽を積む。

楽団プロフィール

倉敷室内管弦楽団は文化都市倉敷市にふさわしいバロック音楽の演奏を主とするユニークな楽団として昭和49年12月結成されました。構成メンバーは会社員、教師、主婦、学生等倉敷市、岡山市及び近郊在住の音楽愛好家で、アマチュアの楽団ながら発足以来メキメキと実力をつけ県下を代表する楽団に成長しました。毎年1回定期演奏会を開くほか、倉敷市内の合唱団との共演、NHK-FM放送に出演など多彩な演奏活動を展開し、昨年9月にはフルートの世界的巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏と共演して大成功をおさめました。毎週月曜日夜の練習は、きびしい修練の場であると同時に音楽がメシより好きな音楽仲間同志の楽しい交歓の場であり、よりよい音楽を作り上げていく力強い原動力となっています。

演奏記録

● 第1回定期演奏会 (S 50.12.8)

ヘンデル

合奏協奏曲OP 6-10

ヴィヴァルディ

協奏曲集「四季」より春夏

バッハ

カンタータ BWV 202

「いまぞ去れ悲しみの影よ、

ブランデンブルグ協奏曲第4番

小山清茂

弦楽の為のアイヌの歌

指揮 / 菊池 東



(サマーコンサートより)

● 第2回定期演奏会 (S 51.11.16)

ヴィヴァルディ

2つのトランペットの為の協奏曲

バッハ

ブランデンブルグ協奏曲第1番

レスピーギ

リュートの為の古代舞曲とアリア第3組曲

ボッケリーニ

チェロ協奏曲変ロ長調

指揮 / 早川 正昭

チェロ / 山崎 伸子



(ランパルと共に)

● ランパルと管弦楽の夕べ (S 52.9.24)

テレマン

フルート協奏曲ニ長調

モーツァルト

フルート協奏曲第1番その他

指揮 / 早川 正昭

フルート / ジャン・ピエール・ランパル

倉敷室内管弦楽団

団 長 : 小 山 裕 章
運営委員長 : 田 辺 幹 夫
顧 問 : 枡 本 辰 郎

指 揮 者 : 菊 池 東
コンサートマスター : 守 屋 美 枝 子
〃 : 中 川 衛 子

Ist Violins : 守 屋 美 枝 子
中 川 衛 子
越 宗 宣 子
佐 藤 せつ子
佐 藤 真 理 子
佐 分 利 小 夜 子
瀬 戸 栄 一
藤 原 和 美
水 田 圭 子
渡 部 幸 子

2nd Violins : 森 田 真 理
菊 池 東
綾 野 めぐみ
黒 住 晃 代
陶 山 靖 彦
友 野 良 一
浜 部 房 世
松 田 敏 彦
宮 垣 節

Violas : 黒 住 彰 夫
中 野 隆 重
黒 見 秀 樹
室 孝 明
桂 修 治
坂 昭 男

Violoncellos : 枡 本 辰 郎
田 辺 幹 夫
宇 野 義 雄
大 森 陽 子
西 田 毅 雄
西 村 洋 子
森 田 真 弓

Contrabasses : 森 田 博 之
安 田 友 子
黒 岩 工

Cembalo : 磯 田 道 代

Flutes : 岡 野 純 子
小 林 登 貴 子

Oboes : 有 道 惇
大 槻 節 子

Fagot : 稲 田 裕 彦

Horns : 新 田 厚 雄
吉 市 幹 雄

Trumpets : 禰 屋 雅 典
森 田 裕 三
中 桐 実